
シルバー先生とtomoN先生へのインタビュー記事

ポケポケパン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シルバー先生とtomon先生へのインタビュー記事

【Nコード】

N8509J

【作者名】

ポケポケパン

【あらすじ】

今回はシルバー先生とtomon先生にインタビューを行いました。

皆さま、大変ご無沙汰しております。

今回は題名の通り、シルバー先生とtomon先生へインタビューを行いました。

言わずもがな、シルバー先生は「jokers」を執筆されtomon先生は「ポケモン不思議のダンジョン+《プラス》」を執筆されております。

この度は私個人の勝手な企画へと快く承諾してくださり、誠にありがとうございました。

それでは早速インタビューの内容をご覧ください。

2

・先生はこの「小説家になろう」サイトをどうやって知りましたか？
シルバー先生

「「バイオハザード」というゲームについて検索していた時に見つけました。」

tomon先生

「ポケダン関連のワードでググっていたら偶然見つけました。」

・ポケモンのファンフィクションを書こうと思ったきっかけはなんでしたか？

シルバー先生

「他のポケモンファンフィクション作家さんの影響です。衝動に駆られて小説を書き始めました。」

tomon先生

「このサイトを発見した時期に、丁度ポケモン熱が再発していたからです。」

・先生の年齢と出身地を教えてください。（任意で構いません）
シルバー先生

「16歳で、九州のとある田舎町に住んでいます。」

tomon先生

「学生で、千葉県に住んでいます。」

・先生のポケモンのファンフィクションを執筆する以外の趣味を教えてください。

シルバー先生

「ゲームと読者でしょうか……小説を読むのは好きですから。」

tomon先生

「楽器の演奏、作曲、動物園・水族館巡りです。」

楽器はバイオリンやギターと言った弦楽器専門で、それ以外の系統の楽器は人には聞かせられません……。」

・一番好きなポケモンの音楽・BGMを教えてください。
シルバー先生

「初代チャンピオン戦とHGSSのフロンティアブレーン戦のBGMですね。滅茶苦茶カッコイイですよあれは。」

tomon先生

「ポケモン不思議のダンジョン 空の探検隊に登場する『まもりのオーブ』です。」

・好きなポケモンのタイプとその理由をお願いいたします。タイプ

は複数・複合でも構いません。

シルバー先生

「水タイプと鋼タイプです。なかなか耐久力があり、バトルで頼りになるタイプですから。」

tomon先生

「鋼タイプ、ですかね。弱点が少ないですし、何よりジラーチが鋼タイプなので（笑）」

・新しいポケモンシリーズの発表がなされましたね。それにつきましては予測はされていましたか？ もしそうでしたら購入されますか？

シルバー先生

「予測はしていませんでした。HGSSを9月に出したし、作るならもう少し期間開くだろうと思ってました。おそらく買うと思います。」

tomon先生

「新作が出る事は知っていましたが、何分、もうゲーム離れをしまっている故に最近のハードを持っていませんので、購入する予定はありません。」

・新たななるタイプの組み合わせが出ると思えますか？

シルバー先生

「出て欲しいです。特に炎ノドラゴンという理想のタイプに（笑）」

tomon先生

「出るかどうかは予想出来ませんが、『あくノドラゴン』辺りが出たら中二臭くて面白いと思います。」

・先生は話を執筆する際、紙に書き留めますか？ あるいはPC・携帯に直接書き込みますか？

シルバー先生

「直接打ち込みます。浮かんできたストーリーをそのまま文字にしていますが、変な流れになることが度々あります（汗）」

tomon先生

「PC・携帯に直接書き込みます。携帯はネタをメモする程度に使い、編集自体はPCで行います。」

・キャラクターを考案する時にヒントを得たもの、あるいはアイデアをもらったことはありますか？

シルバー先生

「今の段階ではありません。皆オリジナルのつもりですが……無意識のうちに参考にしているものもあるかもしれません。」

tomon先生

「具体的に“コレ”というのはありませんが、映画なんかをうつかり見てしまうと、そこに出てくる登場人物と似通ったキャラを書いてしまう事があります。」

・一話を書くのに有する時間はどれくらいですか？

シルバー先生

「早ければ4時間程度。遅くなると一週間以上も……（汗）」

tomon先生

「場面によって大きく異なります。×に当たる話だと3時間くらいかかりますが、バトルシーンであれば10分程度で書き上がります。」

「

・ポケモン小説以外でポケモングッズに関するちよつと誇示できるようなことはありますか？ あるいはポケモンに関して語れるエピソードなどありますか？

シルバー先生

「昔集めてたポケモンカードがあります。約300枚くらいあるかと思われませう」

tomon先生

「ほとんど無いのですが……強いて言えば、大内水軍先生が描かれたジラーチの漫画を持っています。」

・ポケモンそのものにはいつ、どういったように出会いましたか？

(例：幼稚園の時にテレビで、小学生の時にゲームボーイでなど)

シルバー先生

「幼稚園の時にテレビのアニメでだと思います。」

tomon先生

「小学生の時に初めて買ってもらったゲームがポケモンの緑バージョンでした。」

ルックスでヒトカゲを選んで酷い目に遭ったのを覚えています(笑)

┌

・同じポケモンファンフィクション作者として意識、あるいは刺激をもらった作者さんたちはいましたか？

シルバー先生

「上げるとキリが無いので名前は上げませんが、多くの作者様から刺激を貰いました(笑)」

tomon先生

「好きな作者さんは居ますが、他人の話は他人の話と割り切って書いていますのであまり影響を受けた事はありません。」

・執筆中に特に気をつけているものはありますか？

シルバー先生

「文章が単調にならないよう気をつけています。」

tomon先生

「生き生きとした台詞を書く事です。地の文を向上させるには鍛錬が必要なので、せめて台詞だけは拘っていいこうと思ひまして。」

・実際にポケモンの世界に行けるとしたならば、手持ちにしたい最初のポケモンはなんですか？（御三家には限りません）

シルバー先生

「ヒノアラシです。バクフーン大好きですからね（笑）」

tomon先生

「ジラーチ……と言いたいところですが、ライチュウで。」

・作品を投稿、連載していて嬉しかったことはなんですか？

シルバー先生

「読んでくださった方々から感想や評価を貰えたことです。これがなければjokersは続いてません。」

tomon先生

「何よりも、感想を頂ける事です。皆さんが丁寧な感想を下さるの
で、本当に、感無量な心持でした。」

・思い入れの深い話とキャラクターを教えてください。（例：一番書くのに苦労した、一番楽しかった、いろいろと試行錯誤をしたが結局断念したプランなど）

シルバー先生

「勿論主人公のカイルです。フリードとの戦闘シーンは緊迫感溢れるモノにしようと頑張りました。」

tomon先生

「思い入れが深いのは、やはり、物語の終盤 十八、十九章辺りです。」

「この部分を書くためにそれまで連載してきたと言っても過言では無いかも知れません。」

「楽しかったのは、連載を開始してから急遽付けくわえた第五章ですね。」

「慣れないギャグ章でしたが、書いているうちに楽しくなってきた、思わずやり過ぎてしまいました(笑)」

「思い入れの深いキャラクターは、月並みですが、主人公のルーンと、その師匠であるライツです。」

「師弟愛のような物を描ければ良いなあ、と思っておりました。断念したプランはかなりあるので、ここには書き記せません。」

「すべて加えたら多分200話をゆうに超えていたかと思えます(汗)」

「

・もし自分がポケモンの技を一つ習得できるのであれば、何を選びますか？ その理由も添えてください。」

シルバー先生

「でんこうせっか、です。鈍足なので凄スピードで駆け回ることを夢見てます(笑)」

tomon先生

「“テレポート”です。本家では需要が薄いですが、現実世界においてあんなに便利な技は無いと思います(笑)」

・好きなポケモンを五つ教えてください。

シルバー先生

「バクフーン、フライゴン、ミロカロス、ヘラクロス、トリトドン」

tomon先生

「ライチュウ、カイリユウ、ジラーチ、ラフレシア、サニーゴです。」

「

・先生にとってポケモンとはなんでしょう？

シルバー先生

「興味深い友人……？ 難しいですね（汗）」

tomon先生

「子供時代の思い出であり、現在の癒し（？）ですね。」

・オーキド博士よろしくポケモン川柳を一ついただけませんか？（これは任意で構いません）

シルバー先生

「バトフロの 馬鹿には出来ない ファクトリー」

どーせ頭が弱いからブレーン戦まで行けませんよ（笑）」

tomon先生

「ライチュウは もっと評価を されるべき」

・読者の皆様には是非一言お願いいたします。

シルバー先生

「これからも精一杯執筆させていただきますので、よろしく願います！」

tomon先生

「ポケモン不思議のダンジョン+《プラス》をここまで続けて来ら

れたのは、読者様の温かいコメントがあつてこそです。本当に、有難うございます。

どうにもポケモンらしからぬ話を書いてしまう傾向にありますが、今後とも、宜しくお願い致します。」

以上が今回のインタビューの結果となりました。

今回ご協力してくださりましたシルバー先生とtomon先生、本当にありがとうございます。

それでは皆様、次回お会いいたしましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8509j/>

シルバー先生とtomoN先生へのインタビュー記事

2010年10月14日22時55分発行